

5 月度低山はいかい「玉川上水第 3 回」実施報告

実施日:5 月 22 日(水) 晴れ

概要:玉川上水を辿る、今回は 3 回目で JR 武蔵小金井駅に集合し、小金井橋～浅間橋まで玉川上水に沿って歩きました。浅間橋から京王井の頭線の富士見ヶ丘駅に行き解散しました。玉川上水は浅間橋から先は暗渠になります。シリーズのはいかいは今回で終了となりました。歩行距離 12km、高低差 25m

参加者:16 名

主幹事(酒井紀章)、代行(瀬川眞治)、清水長、福田正男、小勝眞佐枝、田口農雄、山本憲人、岩崎光義、入江克昌、福原隆、大石征夫、小太刀健、五十嵐正行、原田博雄、宮崎健、金谷修文

報告者:金谷修文

概要:

レンガ造りが残る小金井橋から姿の見えない浅間橋まで、終始玉川上水の流れに沿ってみどりのトンネルを歩いた。前日の大雨の後とあって、水量は豊か、木々や草たちは生き活きとして目を楽しませてくれた。樹木たちは、それぞれ周辺環境の影響を受けながら様々な姿を見せていた。

小金井橋付近では、大石さんから、桜を植えるため既存の樹木が伐採されていることへの問題が提起された。三鷹付近では、独歩の文学碑や太宰治の話になり、宮崎さんのガイドで、太宰治が夕日を眺めるために通ったという跨線橋を渡り、日ごろお世話になっている中央線や操車場などを見おろした。小勝さんからは 1948 年 6 月 13 日太宰治が愛人山崎富栄と入水した場所や遺体発見場所などの説明があり、しばらくは文学談議に花が咲いた。

杉並区に入ると、上水沿いに新しい車道を建設中で、終点の浅間橋周辺は中央高速道路の下で車道が交錯し、浅間橋の姿はなく、上水の水も姿を消してしまった。

一瞬、開発は自然破壊と同じことと頭をよぎった。気温は上がり炎天下であったが、木陰は涼しく自然の大切さを改めて実感した一日であった。

以上



小金井橋



玉川上水を歩く



イイギリの雄花



スイカズラ



タブノキの実



カジイチゴ